

ヨシキリザメ 大西洋

Blue shark *Prionace glauca*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)
 みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT)
 ワシントン条約 (CITES)

生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 279 cm、雌 273 cm（尾叉長）、体重は不明
- 寿命：20 歳以上
- 性成熟年齢：4~7 歳（50%性成熟年齢の範囲）
- 繁殖期・繁殖場：初夏、北緯 30~40 度と南緯 30~40 度の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域の分布域を回遊しながら周年索餌
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：幼魚は大型サメ類や海産哺乳類

利用・用途

肉はすり身等、鱭はふかひれ、皮は工芸品や医薬・食品原料、脊椎骨は医薬・食品原料

漁業の特徴

大西洋において本種はまぐろはえ縄漁業で数多く漁獲されているが、基本的に混獲種であり、本種は外地で水揚げされるか放流されている。

漁獲の動向

本種のはえ縄漁業等による我が国の水揚量は、1994~2021 年において北大西洋資源（北資源）は 270~4,500 トン、南大西洋資源（南資源）は 180~3,500 トンの範囲で推移しており、近年の水揚量は南北資源ともに 2000 年代初頭から大きく増加したが、北資源は 2018 年以降、南資源は 2019 年以降、水揚量が減少に転じている。

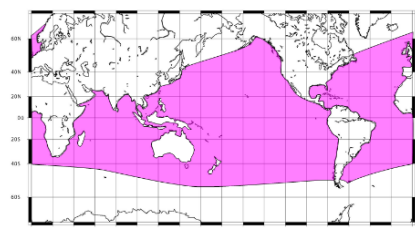
資源状態

南北大西洋系群は 2015 年の ICCAT さめ資源評価会合においてベイジアンサープラスプロダクションモデル (BSP)、統合モデル (SS) 及び状態空間ベイジアンサープラスプロダクションモデル (SS-BSP) を用いた資源評価が行われ、入力データ及びモデル構造の仮定に関して不確実性が高いことを指摘した上で、北資源については乱獲状態になく漁獲も過剰漁獲の状態ではないと評価し、南資源については、資源状態は不明とした。資源の動向は北資源が横ばい傾向を示し、南資源が増加傾向を示した。

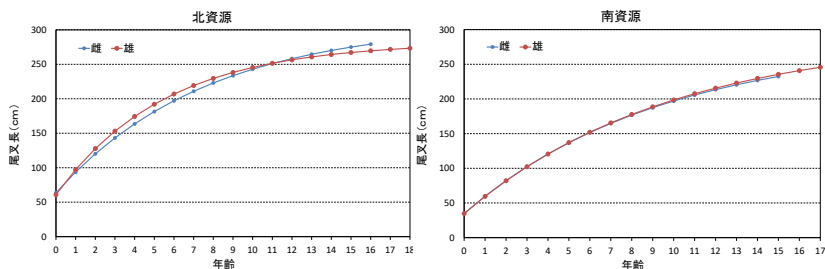
管理方策

全てのマグロ類地域漁業管理機関において、漁獲されたサメ類の完全利用（頭部、内臓及び皮を除く全ての部位を最初の水揚げまたは転載まで船上で保持すること）及び漁獲データの提出が義務付けられている。
 ICCAT では、北資源については、総漁獲可能量 (TAC) を 39,102 トン (2011~2015 年の平均総漁獲量) とし、主要漁獲国を対象に国別割当を設定（我が国漁獲枠は 4,010 トン）する旨の保存管理措置が採択され、2020 年から実施されている。南資源についても、南大西洋全体の TAC を 28,923 トン（国別割当の設定なし）とする保存管理措置が合意され、2020 年から実施されている。2022 年 11 月に開催された CITES 第 19 回締約国会議において、本種（類似種規定による）を含むメジロザメ科のサメ類の附属書 II への掲載が提案され、投票の結果採択された。附属書掲載は 2023 年 11 月 25 日から発効し、本種の魚体、ヒレ等を含む一切の派生物を貿易する際は、輸出国による輸出許可書の発給が必要となる。

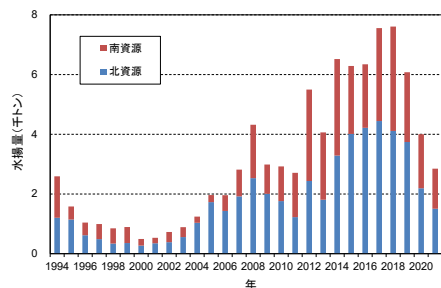
ヨシキリザメ（大西洋）の資源の現況（要約表）		
海域	北大西洋（赤道以北）	南大西洋（赤道以南）
資源水準	高位	調査中
資源動向	横ばい	増加
世界の漁獲量（最近5年間）	2.1万～4.0万トン 最近（2021）年：2.2万トン 平均：2.9万トン（2017～2021年）	2.8万～3.5万トン 最近（2021）年：3.3万トン 平均：3.3万トン（2017～2021年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	1,506～4,444トン 最近（2021）年：1,506トン 平均：3,199トン（2017～2021年）	1,341～3,495トン 最近（2021）年：1,341トン 平均：2,419トン（2017～2021年）
管理目標	検討中	検討中
資源評価の方法	SS、BSP	BSP、SS-BSP
資源の状態	$B_{2013} / B_{MSY} : 1.35 \sim 3.45$	$B_{2013} / B_{MSY} : 0.78 \sim 2.03$
管理措置	漁獲物の完全利用 総漁獲可能量（TAC）：39,102トン 国別割当（日本）：4,010トン	漁獲物の完全利用 総漁獲可能量（TAC）：39,102トン 国別割当（日本）：4,010トン
最新の資源評価年	2015年	2015年
次回の資源評価年	2023年	2023年



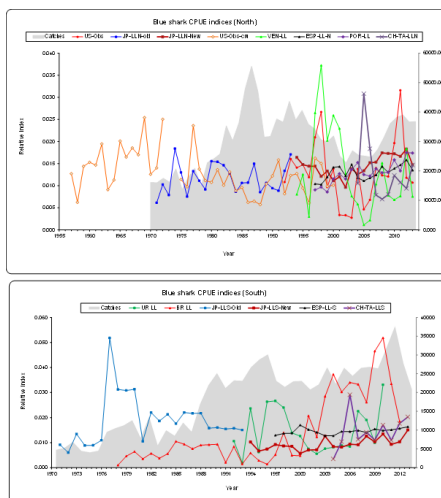
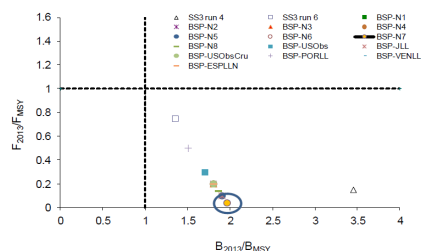
ヨシキリザメの分布



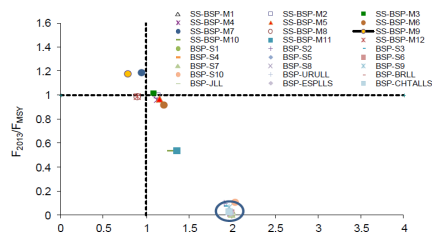
大西洋ヨシキリザメ（南北資源）の成長曲線



日本のヨシキリザメ（大西洋）の水揚量（1994～2021年）



大西洋におけるヨシキリザメの標準化 CPUE 及び漁獲量の年変化上：北資源、1957～2013年。灰色は全体の漁獲量、実線は各国の CPUE（北資源：米国のオブザーバー航海（朱）、日本のはえ縄前期（青）、日本のはえ縄後期（赤）、米国のオブザーバー航海（橙）、スペインのはえ縄（黄緑）、スペインのはえ縄（黒）、ポルトガルのはえ縄（紫）、台湾のはえ縄（紫と×印）、南資源：ウルグアイのはえ縄（緑）、ブラジルのはえ縄（朱）、日本のはえ縄前期（青）、日本のはえ縄後期（赤）、スペインのはえ縄（黒）、台湾のはえ縄（紫））を示す。



SS 及び BSP で示された北資源の神戸プロット（上図）、BSP と SS-BSP で示された南資源の神戸プロット（下図）

青い囲みは BSP で示された一般的な状態（2013年時点の資源状態は、乱獲状態でなく過剰漁獲行為も行われていない状態）を表す。右上の凡例は、各モデル及び複数の異なる設定で行われた感度解析を表す。例えば、SS3 は統合モデルを表す。